

ウイルス研究所

I	研究水準	研究 25-2
II	質の向上度	研究 25-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、国際学術誌に発表された論文数は、平成 16 年には 199 件であったが、平成 19 年には 349 件に達しており、その多くが国際的に高い評価を受けている雑誌に掲載されており、非常に高いレベルを保っている。研究資金の獲得状況については、本研究所における競争的資金の獲得総額は、現在 7 億円を突破し、教員一名当たりの年間研究費は 2,000 万円に達することから、多くの金額の研究費を獲得しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、感染症モデル研究センターでは唯一、国内最大規模である霊長類 P3 実験施設を有しており、全国の研究者と共同研究を展開し、多くの業績を上げているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、ウイルス研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、ウイルス研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、国際学術誌に発表された論文数は平成 19 年には 349 件に達している。個々の論文の水準は高く、その中には Cell、Science、Nature 関連誌等世界をリードする雑誌に記載された独創性の高いものが、各部門から報告されており、当該研究所の教員の質が極めて高いことを示している。また、当該研究所における教員一名当たりの年間研究費は 2,000 万円に達していることは、各人の研究が対外的に非常に高く評価されていることを示しているなどのことから、優れた成果である。

以上の点について、ウイルス研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、ウイルス研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。